

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	02	01	08	124330	国際都市推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進		
	施策	03	国際都市の推進				
目的	市民の国際理解や国際感覚を養い、国際交流活動を促進するため、国際交流活動や情報拠点となる国際交流センターの運営を行うとともに、公益財団法人花巻国際交流協会が実施する各種事業を支援する。						
対象	海外の人々、市民						
意図	海外の人々と市民の相互理解促進を図り、花巻市への来訪、定住を図る。						
事業概要	国際都市推進員の活用等 3,928千円						
	公益財団法人花巻国際交流協会補助 2,301千円						
	公益財団法人花巻国際交流協会が行う国際理解推進事業等への補助						
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解推進事業（多文化サロン、市民語学講座） ・定住外国人支援事業（コミュニケーション支援、生活支援） ・国際交流情報提供事業、国際交流団体活動支援事業 						
市民参加の有無	無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	情報発信回数	回	計画	50.00	50.00		
			実績	48.00	45.00		
2	小・中学校等での会話指導	回	計画	10.00	10.00		
			実績	18.00	14.00		
3	公共施設等の多言語表示等	回	計画	5.00	5.00		
			実績	2.00	2.00		
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	交流会・講座等参加者数	人	目標	1,400.00	1,400.00		
			実績	1,796.00	2,196.00		
2	訪日外国人観光客入込客数（暦年）	万人	目標	4.40	5.20		
			実績	5.00	6.10		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<ul style="list-style-type: none"> ・交流、講座等の参加者については、主に国際フェアの入場者数が小中学校へのチラシ配布やフェイスブックでの配信等により増加となった。内容やPRの工夫によりさらに参加者増加を図る。 ・フェイスブックでの情報発信を、英語、中国語、韓国語で実施し、多言語での情報発信に努めている。 		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・市として、海外へ情報発信することや、国際交流団体への支援は、国際都市化を推進するうえで妥当な事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流協会が実施している各種講座等は、講座内容の見直しや工夫の余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<ul style="list-style-type: none"> ・国際都市推進員は、非常勤職員として雇用しており削減の余地がない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	<ul style="list-style-type: none"> ・国際都市推進員の活用により海外への情報発信が推進され、花巻市への来訪者の増加が期待できることから、市民の受益と負担は公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	<p>花巻市の様子やイベント等の情報を国際都市推進員が多言語で発信した。また、異文化理解を促進し国際感覚の醸成を図るための事業を実施し花巻市の国際都市化の推進に努めた。</p>
	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・国際都市推進員により、外国人の目線で見えた「花巻」を情報発信し、外国人受け入れられやすい情報を発信する。 ・国際理解講座などの公益財団法人花巻国際交流協会事業を支援することにより、市の国際都市化を推進する。 ・国際交流センターの運営を公益財団法人花巻国際交流協会へ委託し、より効果的に運営を行うよう務める。 ・海外の情報をいち早く取り入れ、また、花巻の情報を的確に発信していくために国際都市推進員の活用は欠かせない。 ・市民は、海外の文化や言語についての知識を国際都市推進員によって得られ、国際理解を深めることができる。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	02	01	08	124340	国際姉妹都市等交流推進事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進		
	施策	03	国際都市の推進				
目的	異文化への理解を深め、国際感覚の醸成を図るため、国際姉妹都市及び友好都市等との中学生等の研修派遣や青少年、市民の受入交流事業を行う。						
対象	花巻市民（中学2年生）、国際姉妹都市等の中高一・市民・教員						
意図	国際姉妹友好都市等への派遣及び受入事業を通じて、異文化を学ぶとともに国際感覚の醸成を図る。						
事業概要	公益財団法人花巻国際交流協会補助 7,085千円 公益財団法人花巻国際交流協会が行う交流研修事業への補助 ・青少年海外派遣研修事業（市内中学2年生を、ホットスプリングス市、ベルンドルフ市、ラットランド市、クリントン村へ6名ずつ派遣。） ・海外青少年受入交流事業（ホットスプリングス市、ベルンドルフ市、ラットランド市、クリントン村からの青少年をホームステイで受け入れ。） ・市民等交流事業（国際姉妹友好都市からの市民等を受け入れ。）						
市民参加の有無	無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	交流都市	箇所	計画		6.00	6.00	
			実績		6.00	6.00	
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	姉妹都市等への派遣人員	人	目標		50.00	50.00	
			実績		57.00	31.00	
2	姉妹都市等からの受入人数	人	目標		50.00	50.00	
			実績		70.00	52.00	
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
・受け入れについては、国際姉妹友好都市との周年記念事業やクリントン村からの受け入れがなかったことにより、受入人数が減少した。 ・派遣についても、姉妹友好都市との周年記念事業の訪問がなかったことにより、派遣人数が減少した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・民間が主体になって実施している事業に対して、市が補助を行うことにより、派遣参加者の負担軽減が図られることから公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・市や国際交流協会のHP、広報等様々な手段により事業の周知を図り、また、内容の充実を図って市民の関心を深めていくことが必要である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・派遣事業では複数業者からの見積り合わせや経費の積算方法を見直ししながら、費用の縮減を図る。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・派遣生徒は市内中学2年生全員を対象としており、受益機会は適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	国際姉妹都市等への青少年海外派遣研修や海外青少年等の受入を行い、市民の国際感覚の醸成に努めた。
	次年度に向けて	・海外青少年派遣研修事業については、市内中学校での報告会の開催により、多くの関心を高めることにつながった。今後も各中学校と協議しながら、事業参加へのモチベーションアップに努める。 ・海外青少年・市民等受け入れ事業については、市民との交流を行う受入プログラムを増やすなど、国際交流に関わる市民の増加に務める。 ・令和2年度のベルンドルフ市との友好都市提携55周年記念として、これまでの交流や記念事業による市民訪問団の派遣について、市民への周知を図る。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	17	124650	国内友好都市交流推進事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	03 生涯学習の推進			
	施策	03	国際都市の推進					
目的	市民が国内友好都市の文化を学び、自分たちの文化を再認識するため、友好都市との交流を推進する。							
対象	花巻市民・友好都市市民							
意図	友好都市間の交流を促進する。							
事業概要	友好都市との交流 ・平塚市35周年、十和田市30周年記念事業の実施等 236千円 ・花巻市友好都市交流委員会補助 1,670千円 花巻市友好都市交流委員会が実施する事業に対し補助金を交付する。 平塚市35周年記念式典、十和田市30周年記念式典、少年少女交流キャンプ、市民ツアー、友好都市と交流に係る団体への助成など							
市民参加の有無	無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	友好都市交流事業実施回数			回	計画	20.00	20.00	
					実績	29.00	29.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	友好都市交流事業参加数			人	目標	440.00	450.00	
					実績	359.00	406.00	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
・友好都市との交流事業や市民団体等の参加者数は、平成31年度の平塚市との提携35周年、十和田市との提携30周年の記念事業により昨年度に比べ増加した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・市が取り交わした友好都市提携盟約書に基づいて進めている事業であり、公共関与は妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・事業の内容の見直しや、交流を呼びかける周知方法を充実させるなどの余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・友好都市との交流を広げるための事業費として、これ以上の削減は事業の縮小につながるため削減の余地はない。 ・職員は、企画と実施を行っており外部に委託することのできないため削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・交流事業の参加者は、小学生・市民とも市内全域から募集をしており、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	市民が国内友好都市の文化を学び、自分たちの文化を再認識するために、市民団体の交流活動の推進、市民ツアーの開催、友好都市少年少女交流キャンプ等を実施し、友好都市との交流を推進した。
	次年度に向けて	前年度に引き続き多くの市民の交流が行われるように、花巻市友好都市団体交流助成の利用や友好都市の情報発信するなど啓発に努め、市民の各層、様々な団体が友好都市との交流を進めることにより、友好都市の文化を学び、自分たちの文化を再認識するよう努める。